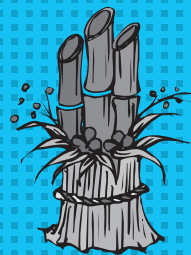


- ☆ 2012年新春のつどい
- ☆ 写真で見る2012年新春のつどい
- ☆ 2012年春季生活闘争
- ☆ 組合役員教育プログラム説明会
- ☆ 震災支援 / 本田狭山寄付
- ☆ 小林直哉会長ってどんな人?
- ☆ ネット21 熊谷オープン / もうすぐ選挙 / 2月の行動日程
- ☆ あけぼのビル



2012年 新春のつどい



連合埼玉は1月11日(金)さいたま市・ときわ会館において、来賓・構成組織・地域協議会・執行部の約350名が参加のもと、2012新春のつどいを開催した。

はじめに連合埼玉を代表し、小林直哉会長から「連合埼玉として次の5つの運動を推進していきたい。①組織の強化・拡大、②中小地場組合への支援、③政策制度の実現、④地域における社会参加運動、⑤政治活動。また、私たちを取り巻く環境は、年を新たにすることにより難しさも増しているように思う。しかし、私たちは現実を見据えて取り組み、組合員の

みなさんに、GUH(組合員総幸福度:Gross Union Happiness)で、「幸せ」と答えてもらえるよう努力したい」との挨拶がされた。

来賓として、埼玉県を代表して上田清司知事をはじめ、清水勇人さいたま市長、労働福祉事業団を代表して埼玉県労働者福祉協議会より宮本重雄理事長(中央労働金庫埼玉県本部長)、埼玉労働局より安藤よし子局長、民主党埼玉県連と社民党埼玉県連の議員の皆さんを紹介し、代表して民主党埼玉県連代表の武正公一衆議院議員より、連帯と

激励の挨拶をいただいた。

引き続き、中澤範夫副会長の発声により乾杯し、福祉事業団体等に協賛いただいている毎年恒例のお楽しみ抽選会を行い、限られた時間ではあったが、参加者はそれぞれの近況や決意など語り合いながら歓談した。

最後に、松井健副会長の閉会の挨拶により新春のつどいは盛況のうちに終了した。



主催者代表:小林直哉会長

写真で見る2012年新春のつどい



2012年をスタートした連合埼玉に乾杯!!



「ヨイショ」の掛け声で鏡割り



民主党埼玉県総支部連合会と
社民党埼玉県連合のみなさん



推薦・友好首長のみなさん



上田清司
埼玉県知事



宮本重雄
労働福祉協議会理事長



清水勇人
さいたま市長



安藤よし子
埼玉労働局長



武正公一
民主党埼玉県連代表



会長賞GET!



閉会の挨拶をする松井副会長

2012年春季生活闘争

～労働条件交渉と政策・制度の実現を「両輪」にすべての労働者の雇用と生活の安定を実現しよう!～

1. 2012年春季生活闘争 重点取り組み項目

1) 重点取り組み

2012春闘では、格差是正・底上げ・底支えの観点から、すべての勤労者を視野に入れた取り組みをすすめて、適正な成果配分を迫り労働条件の低下を阻止する。そのためには、職場で働く全ての勤労者を対象とした処遇の維持改善と、賃金水準の維持・向上に取り組む。また、県内勤労者の底上げに向けて、組織の役割として、企業内最低賃金の締結と金額向上に取り組む。中小・地場組合や未組織にも反映できる環境づくりを行う。

2) すべての組織で取り組む項目

- ①賃金カーブ維持分の明示・確保をし、賃金制度が未整備な組合は、1歳・1年間差の社会的水準である5,000円以上の要求を行い、賃金水準の維持をはかる。
- ②賃金カーブや実態賃金が埼玉県ミニマム賃金を下回る場合は、中長期計画を策定し、賃金の底上げをはかる。
- ③県内勤労者の賃金底上げをはかるため、企業内最低賃金の締結を進める。同時に水準を高めることで未組織を含むすべての勤労者へ波及させる。目標金額は別途提示する。
- ④同じ職場で働いている非正規労働者やパート労働者などすべての労働者を対象に賃金改善を求める。時間給の引き上げ目安を、絶対額で1,000円程度とし、引き上げ額目安を職務や人材活用の仕組みが正社員と同じ働き方をしているパート労働者に対しては30円、職務や人材活用の仕組みが正社員と異なる場合は20円とする。
- ⑤賃金以外の労働条件でも積極的な改善の取り組みを進める。

3) 連合埼玉の取り組み

～労働条件交渉と政策・制度の実現を「両輪」にすべての労働者の雇用と生活の安定を実現しよう!～をスローガンとし以下の取り組みを中心に行う。

- ①街宣行動や経営団体への要請を中心に、中小・地場組合や未組織にも波及できるように世論喚起行動を地域協議会とともに展開する。
- ②構成組織の交渉支援として、県内の経済情勢解説、企業の財務状態の見方などを含めた春季生活闘争パワーアップセミナーを開催する。
- ③埼玉県ミニマム賃金を設定して幅広くPRすることで、賃金の底上げと格差是正の運動につなげていく。
- ④短時間勤務制度の普及促進に関する共同宣言をふまえた展開をする。

2. 具体的な活動予定

1) 2012年春季生活闘争パワーアップセミナーの開催

日時:2012年2月4日(土)・12日(日)
 場所:あけぼのビル5F会議室
 内容:連合埼玉春闘方針、連合白書、県内の経済情勢について、賃金実態調査の報告、春闘に向けた会社の数字の見方

2) 世論喚起街宣行動

- ①1次行動 春闘開始宣言
 日時:2月14日(火)18:00～
 場所:大宮駅頭(東口)
 参加者:労働政策委員会・連合埼玉事務局
- ②2次行動 ミニマム賃金アピール
 日時:3月7日(水)18:00～
 場所:大宮駅頭(東口)
 参加者:連合埼玉執行部、女性委員会
- ③4次行動 中小・地場組合解決促進アピール
 日時・場所:4月5日(木)熊谷
 6日(金)南越谷、11日(水)川越
 12日(木)大宮 各18:00～
 参加者:連合埼玉事務局、各ブロック担当執行部、各ブロック地域協議会

3) 世論喚起駅頭行動(各地域協議会)

- ①1次行動 一斉労働相談アピールおよび春闘開始報告
 日時:2月15日(水)～21日(火)
 場所:県内各駅頭
 参加者:各地域協議会
- ②2次行動 ミニマム賃金アピール
 日時:3月5日(月)～9日(金)
 場所:県内各駅頭
 参加者:各地域協議会

4) 賃金底上げミニマム要請行動

- ①経営団体への要請行動(連合埼玉)
 日時:3月19日(月)～23日(金)
 要請先:埼玉県経営者協会、経営三団体
 参加者:労働政策委員長、連合埼玉事務局
- ②商工会などへの要請行動(地域協議会)
 日時:3月26日(月)～3月30日(金)
 要請先:各地域商工会議所など
 参加者:地域協議会三役など

「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて

“組合役員教育プログラム説明会”開催

12月19日(月)、「組合役員教育プログラム説明会」を総勢54名のもと、さいたま共済会館で開催した。連合埼玉は、このプロジェクトを通じ、体系だてをした組合役員教育プログラムを構築し、組合役員や組織のリーダーの資質向上に向けた人材育成を行うこととした。

開催にさきだち、連合埼玉小林会長より「私たち連合の使命は、自分たち労働者の地位向上や労働条件の改善のみならず、自分たちの置かれている立場は、他とどう違うのか、今の時代に適合した組合活動をするため、現場の声や疑問を投げかけ、今後の教育プログラムをみんなで作り上げていきたいと思います」と挨拶がされた。



挨拶をする小林会長

続いて鶴谷副事務局長より、今回の教育プログラムの主旨として「連合運動を進めるにあたり、まずは各組合が企業内の対応をきちんとできること、その上で初めて組織外の活動にも目を向ける事ができる。そのためには、会社ときちんとした労使交渉が出来る“リーダーの育成”が必要となる。このリーダーを育成することにより、健全な労使交渉による生産性の向上、職務遂行能力の向上などにつながり、より良い会社の発展につながる。そして、労働者の雇用と生活の安定につながると考えている。このことが、私たち連合が目標に掲げている『働くことを軸とする安心社会』すなわち安心して働くことが出来ることにより、私たち労働者の資質や能力の向上、そして会社の発展へもつながる。そして健康かつ文化的な生活を送ることが、社会的な安定基盤にもなるという好循環な安心社会を作ることになると考えている。また、より早期にこの安心社会を確立するために、この教育プログラムではトレーナー養成講座も設けている」との説明があった。



講師：j.union株式会社 大川守氏

次にデモ講座として、j. union株式会社の大川守氏により「労働組合の意義と機能」について講義を行った。

いかに組合活動に興味や関心を持ってもらえるか、言われるからやるのではなく、自ら考えてやってみようと思ってもらうために、「自分がやっている組合活動が人のため、組織のためになっている」「活動を通して出会いがあり、自分の成長を感じることができる」など、やりがいを感じてもらうことが大事だと説明がされた。



「組合役員教育プログラム説明会」の様子

終了後のアンケートでは、「自労組のセミナーと重複しない内容については受講したい」「このような教育を受ける機会ができて非常にいい活動だと感じた」「講座ごとに研修として利用したい」など様々な感想をいただいた。

この講座は全5分野・27講座あり、基礎講座については、毎年開催できるよう努め、全27講座については数年かけて継続開催にしたいと考えている。

東日本大震災により県内に避難されている方々

昨年の3月11日に東日本大震災が発生してから8カ月が過ぎ、被災地の復興はすすんできているものの2012年1月26日現在、埼玉県内に避難している方は4,807人います。

連合埼玉では、これまでに県内12カ所の地域協議会を含めた義援金カンパ活動、埼玉県内に避難している方たちへの物資支援、メーカーへの招待、被災地へのボランティア派遣など支援を行ってきました。また、現在では風評被害払拭のための狭山茶購入活動、埼玉県内避難者を支えているグループなどへ地域や組織をこえて支援をしています。「共助や支え合いは労働組合の原点」でもあり、今後も様々な復興支援をしていきますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

■ 東日本大震災に伴う避難者数(避難場所別)

埼玉県	さいたま市	熊谷市	川口市	行田市	秩父市	所沢市	飯能市	東松山市	春日部市
3,770	18	31	28	15	6	10	26	180	61
狭山市	羽生市	深谷市	草加市	越谷市	入間市	新座市	桶川市	坂戸市	ふじみ野市
189	8	40	40	22	9	87	8	19	50
毛呂山町	越生町	小川町	吉見町	鳩山町	皆野町	杉戸町	小計		
18	3	8	4	102	5	50	1,037		

本田技研労働組合からご寄附いただきました!

去る1月6日、本田技研労働組合埼玉支部において、東日本大震災被災者義援金の贈呈式が行われました。これは、昨年12月4日(日)に「あったかフェスタ in SAITAMA ～狭山から元気を届けよう～」と題し、本田技研労働組合埼玉支部主催、本田技研工業(株)埼玉製作所協賛にて開催し、イベントにて集めていただいた義援金を、連合埼玉に対し、「東日本大震災の被災者支援金」として、ご寄附頂いたものです。



太田執行委員(左)より目録を受け取る佐藤事務局長

開催にあたっては、イベントを通して元気と勇気を出していただきたい、また、被災地への復旧・復興に対して少しでもお力になればと想い企画し、近隣地域に避難されている方々に対しても市町村の担当者を通じて案内を行い、当日は楽しんでいただきました。

連合埼玉では、御礼を申し上げますとともに、そのご意思を尊重し、ご寄附頂きました義援金は、被災者支援に充てさせていただきますことを、ご報告いたします。誠にありがとうございました。

小林直哉会長ってどんな人？

昨年11月に連合埼玉の会長に就任して約3カ月。いろいろなところで小林会長の人柄について聞かれることが多いため、今回ふだん聞けないあんなことやこんなこと(?)をインタビューしてみました。

Q1. 組合役員になったきっかけは？

入社3年目に職場の先輩から声をかけられて執行委員に。
今思えば職場懇談会で好き勝手に発言していたので、目をつけられたのかもしれませんね。

Q2. 連合埼玉の会長になった感想・抱負など

感想は、県内外の組合役員や行政、経営者、議員の皆さんの顔と名前を覚えるのが大変なこと。
抱負は、連合埼玉が多くの埼玉県民に認知されるよう努力したい。

Q3. 家族構成

母と妻、6カ月になる長男(孫ではありません。(笑))

Q4. 休日の過ごし方

何も考えずに庭木の手入れをすること。樹木の枝ぶりはメチャクチャになってしまうけど、ストレス解消にはなります。

Q5. 最近の楽しみ

休日の散歩。家の周りを1時間ほど。まわりは比企丘陵地帯なので、リフレッシュに最適です。

Q6. 趣味・意外な特技

ここ3年はご無沙汰だけど、学生時代から続けているテニス。それと、高校時代にやっていたフルート。楽器はもうサビついちゃってますけど・・・。

Q7. 好きな音楽

気分転換によく聴くのは、クイーンかな。

Q8. 会長の夢は？

仕事面では、働く意欲のある人すべてが雇用され、ハラスメントのない社会。

プライベートでは、オランダ画家フェルメールの全35作品の現物鑑賞。日本で開催の美術展や海外美術館でこれまでに15作品鑑賞しました。

Q9. 日課としていること？

会長就任を契機に何かを始めようと思いついたのが、禁煙と英会話。禁煙はムリそうなので、通勤電車でラジオ英会話を始めて3カ月。いつまで続くことやら・・・。



穏やかで優しい小林会長です

Life Support Station "Net21 Kumagaya"

ライフサポートステーション「ネット21熊谷」 オープン

このたび久喜・川越に続き、連合埼玉地域協議会北部ブロックエリア内の熊谷市に、地域における勤労者福祉の向上と、生活・暮らしに関わる総合支援サービスをめざし、その拠点として『ライフサポートステーション・ネット21熊谷』開設の運びとなりました。

地域・市民とのネットワークの拠点、労働・生活・暮らしに関する相談窓口など、総合生活支援サービスの拠点として「ワンストップサービス」をめざしてまいります。

つきましては、下記日程にて事務所の開設レセプションを開催いたします。



日 時:2012年2月10日(金) 18:30~

場 所:ネット21熊谷事務所

熊谷市筑波1丁目146つくばねビル1F

= も う す ぐ 選 挙 =

上尾市長選挙

◆武藤 政春(むとう まさはる) 65才(無所属・新・連合埼玉推薦初)

告示日:2012年1月29日(日) 投票日:2012年2月5日(日)

宮代町議会議員選挙

◆石井 眞一(いしい しんいち) 63才(民主党・現1・連合埼玉推薦2回目)

告示日:2012年2月7日(火) 投票日:2012年2月12日(日)

新座市議会議員選挙

◆柴崎 清(しばさき きよし) 55才(民主党・現1・連合埼玉推薦2回目)情報労連組織内

◆佐原 範久(さはら のりひさ) 63才(民主党・現1・連合埼玉推薦2回目)

告示日:2012年2月12日(日) 投票日:2012年2月19日(日)

現在予定される2月の日程表です

2月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	水	全国一斉労働相談ダイヤル(～2/3)
2日	木	第1回地協議長・事務局長会議(14:00～ときわ会館)
3日	金	
4日	土	2011年度中央労金埼玉県本部全体集会(10:00～ 4日・きぬ川ホテル三日月)
5日	日	春季生活闘争"パワーアップセミナー"(10:00～16:00・あけぼのビル501)
6日	月	①運輸労連「旗びらき」(18:00～・鬼怒川観光ホテル) ②第34回関東ブロック労委協総会・研修会 ③上尾市長選挙投票
7日	火	第1回広報委員会(16:00～・連合埼玉会議室)
8日	水	第3回四役・執行委員会(ときわ会館)
9日	木	宮代町議選告示
10日	金	①北方領土返還要求運動埼玉県民会議「23年度第2回役員会・総会」(13:30～・あけぼのビル502) ②北方領土返還要求運動埼玉県民会議「県民大会」(14:10～・あけぼのビル501)
11日	土	ネット21熊谷オープニングセレモニー(18:30～・熊谷事務所予定)
12日	日	春季生活闘争"パワーアップセミナー"(10:00～16:00・あけぼのビル501)
13日	月	①新座市議選告示 ②宮代町議選投票
14日	火	①埼玉労福協フードバンク研究会(10:00～・連合埼玉会議室) ②民主党埼玉県連「2012新春の集い」(18:00～・浦和ロイヤルパインズホテル)
15日	水	春闘開始宣言(18:00～・大宮駅東口)
16日	木	埼玉シニア連合第2回幹事会(14:00～・連合埼玉会議室)
17日	金	
18日	土	
19日	日	新座市議選投票
20日	月	中央労金本部営業推進委員会(15:00～)
21日	火	
22日	水	中央労金理事会
23日	木	
24日	金	ライフサポートステーション運営会議(9:00～・ネット21熊谷)
25日	土	地域別最低賃金全員協議会
26日	日	
27日	月	女性委員会「第2回幹事会」(18:00～・連合埼玉会議室)
28日	火	ネット21「第3回運営委員会」(10:00～・連合埼玉会議室)
29日	水	

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

◇富士山はなぜ高いのか？

新しい年になり、事務所の机の中を整理していたら、一冊の本が出てきた。昨年の11月にある県議会議員の県政報告・講演会に出席したが、そのときの講師でみえた政治評論家の有馬晴海氏が書いた「総理大臣になる方法」であった。目次に目を通してみると、単なる政治評論本ではなさそうなので、読んでみることにした。断っておくが、わたしは政治家になるつもりもなく、ましてや総理大臣になりたいなどと思ってもない。

読み始めるといきなり、「富士山はなぜ高いのか？」富士山が「高くあり続けるのは」「高いまま崩れないのは」という少々頓知混じりの質問が現れた。答えは、「すそ野が広いから」「尾根が広いから」である。「ふ～ん」と言う感じであるが、すそ野が広くなければどんなに強固な物質であろうと富士山の高さまで積み上げることは不可能である。

著者は富士山を「人」に置き換え、人が成長していく上であらゆる知識や見識がすそ野となる。すそ野を広げるためには、多くの物事に触れ、感受し、知識にしていかなければならないと述べている。すそ野を広げるには「これだ」と断言できるものはないが、著者はとっかかりとして「他人」「本」「旅」の3つの要素をあげている。説明は省略するが、日常と違う環境に自分を置き刺激を受けることが大切だと言うことだ。

◇他人との出会いからすそ野を広げる

昨年11月に開催した第12回定期大会で「組合役員教育プログラム」による人材育成を進めていくことを確認した。12月19日には、「組合役員教育プログラム」説明会を開催し、連合埼玉の人材育成に対する考え方、プログラムの内容説明、実施・運営に関する課題等について説明し、あわせて基礎講座「労働組合の意義と機能」の模擬講義を行ない講義の内容についても意見交換を行なった。

私たち連合の使命は、自分たち労働者の地位向上や労働条件の改善のみならず、社会的課題の解決に取り組むことであり、連合埼玉の運動を強固なものにしていくためには、各加盟組合の役員が企業内における対応を適切に行なっていくことが第一であり、このことがクリアできてはじめて、外部の活動や連合運動に力を注ぐことができる。

そのためには基礎のみならず、活動に必要な実践的・

専門的な分野の知識習得も必要となってくる。大手組合であれば研修体系が構築されていても、中小労組では難しい。

このような課題を克服するために、連合埼玉は体系だった教育プログラムにより人材育成を進めていくことが必要であると考え、「組合役員教育プログラム」の構築を運動の柱に掲げた。教育プログラムは「基礎・実務・スキルアップ・専門・トレーナー養成」の5分野27の講座から構成されており、組合役員としての必要な知識の習得に力点をおいたものとなっている。

一方、人材育成においては、人との交流も大きな意味を持つ。一組合の活動だけでは、井の中の蛙になりがちであり、物の見方や価値観を広げる上でも他の労組役員との交流は有効である。

他人と話してみると、自分が想像したこともないことに興味を持ち、その知識量や深さに驚かされることもある。特定の分野の興味深い話しやどこで情報を得たのかなど、聞くこともさほど難しいことではない。自分との考え方の違いや物の見方の違いなども知ることができる。何よりもネットワークが広がることは自分の活動領域も広がり、人生における財産となる。組合役員を退任した人は口をそろえて言う「活動を通じて多くの人に出会えたことは財産である」と。

◇自らの努力でしか自己成長はない

知識や経験は何ごとにも代えがたく、人が成長する過程において自らが学ばなければ身にはならない。自ら学ばない限り、知識は得ることはできない。経験は日常生活の中からも積み重ねていけるものではあるが、日常の環境とは違う環境に自らを置かなければ特別な経験を積むことはできない。どんなにお金を積んでも知識や経験を買うことはできず、自らの努力によってしか身にはならない。誰もが分かっていることではあるが実行するにはきっかけ・刺激が必要である。

連合埼玉の「組合役員教育プログラム」が組合組織ならびに組合役員のきっかけ・刺激となり、それぞれがすそ野を広げていけるように、人材育成に運動の力を傾注して行きたい。そのことが労働組合のすそ野を広げ、連合埼玉のすそ野を広げていくこととなる。

現在、各講座のテキストづくりを進めており、準備ができた分野・講座からスタートしていきたい。改めて皆さんとは議論を重ね、「組合役員教育プログラム」の構築を進めていくこととしたい。

2012.1.23